

徳島県産国会議事堂大理石の研究

-その 3. 衆参両院における石材使用の比較-

石田啓祐*・中尾賢一**・香西 武***

* 徳島大学大学院 SAS 研究部地球科学教室, 〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1,
ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp

** 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町向寺山文化の森総合公園

*** 鳴門教育大学自然系地学教室, 〒772-8502 鳴門市高島 748

Marbles from Tokushima Prefecture, decorating the National Diet Building

-Part 3: Comparison between the House of Representatives and the House of Councilors-

Keisuke ISHIDA*, Ken-ichi NAKAO** and Takeshi KOZAI***

* *Laboratory of Geology, Institute of Socio-Arts and Sciences, University of Tokushima, 1-1 Minamijosanjima,
Tokushima 770-8502, Japan. ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp*

** *Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-mori Park, Tokushima 770-8070, Japan*

*** *Laboratory of Geology, Naruto University of Education, 748 Takashima, 772-8502 Naruto, Japan*

Abstract

Marbles from Tokushima Prefecture that decorate the National Diet Building of Japan (Nagata-cho, Tokyo) were compared directly for the first time about the use of the seven brands in the House of Representatives and the House of Councilors. The seven brands, “Akebono”, “Kito-ishi”, “Hototogisu”, “Kamo-sarasa”, “Awayuki”, “Kotajima” and “Shin-awayuki” were verified that they were used symmetrically in both the House of Representatives and the House of Councilors including the central part of the building. The “Akebono”, Silurian limestone of the Kurosegawa Tectonic Zone from Koyamadaira (Sakashu, Naka-cho), is used on the wall of the Diet members’ Second Stairway. The “Kito-ishi”, limestone breccia intercalated in Late Carboniferous chert facies from Misago-Yama (Sakashu, Naka-cho), is used for the fireplaces in the reception rooms of the Vice-presidents. The “Hototogisu”, Late Triassic dolimitic limestone in the earliest Cretaceous accretion mélange from Arida (Asebi-cho, Anan City) of the South Chichibu Belt (Tsunomine Subbelt), is used for the well-ornamented entrance frame of the Emperor’s room “Gokyujo”. The “Kamo-sarasa”, latest Triassic intramicrite from Oji (Kuвано-cho, Anan) of the Tsunomine Subbelt, is used on the wall inside the central entrance of the building, and door frames of rooms in both houses. The “Awayuki”, Late Triassic gray limestone with *Megalodon* and dark blocks of hexa-corals from Kurogo (Kamo-cho, Anan City) in Tsunomine Subbelt, is used for the base of the wall along the square in front of the Emperor’s room, and the base of pillars around the central hall, as well as the lower part of the wall around the assembly hall of both houses. The “Kotajima”, black cleaved Norian limestone from Higashibun (Tsunomine-cho, Anan City) in the Early Cretaceous olistostrome of the Tsunomine Subbelt, is used on the lower part of the wall along the passage of the third floor in both houses, and walls of the “Kisha Kaidan” stairways to both galleries. The “Shin-awayuki”, Late Carboniferous limestone from the Izeiki (Takarada-cho, Anan City) in Jurassic accretionary mélange of the South Chichibu Belt (Hosono Subbelt), is used for the mosaic on the floor of the Central Hall.

Keywords: National Diet Building, marble, Tokushima Prefecture.

1. はじめに

国会議事堂（東京都千代田区永田町，1920<大正9>年起工，1936<昭和11>年落成）の建築には，徳島県産の大理石（石灰岩）が，内装の要所に多数使用されている．建設計画から110余年，石材調査完了から90年，竣工から70年以上を経た今日，国会議事堂建築に当たっての石材切り出しの経緯と現地を確認し，正確な記録を将来に留めることは，国会議事堂の建設を石材の面から一層明らかにすることであり，代表的石材産地のひとつである徳島県においては，重要な調査・研究課題である．

国会議事堂の石材に関しては，小山（1931），大蔵省営繕管財局（1936，1938），工藤ほか（1999）などの報告があるが，徳島県産の石材採掘場所は，文献によって一部に差異があり，詳細な点で不明な部分があった．筆者らは，地域貢献支援の一環として，国会議事堂建築に使用された徳島県産石材の学術・文化的意義を探求し，これまで不詳とされてきた県産石材の調査を推進する目的で，採掘場所の特定と議事堂での石材照合作業を進めてきた（石田ほか，2004，2007）．これまでに国会議事堂で照合調査を行ったのは中央玄関・広間～御休所に至る中央部と衆参両院全体である（2004年1月，2005年3月，2006年1月）．また憲政記念館と矢橋大理石（株）（岐阜県大垣市赤坂町）に保管されている石材標本との照合を行った（2004年1月，2004年3月）．これらと並行して，徳島県内では，採掘場と石材の地質学的位置づけ，ならびに採掘の経緯に関する調査を進めている（図1）．これまでに採掘場とその地質学的位置づけ（石田ほか，2004），ならびに採掘関連聞き取り調査とその検証（石田ほか，2007）に関して報告した．

本報では，議事堂で使用された徳島県産の全石材7銘柄について，衆参両院および議事堂中央部分での使用状況を比較した．すなわち，議事堂での照合調査に基づき，徳島県産大理石の衆参両院での使用箇所の比較，ならびに衆参両院の翼を繋ぐ中央広間と中央玄関から中央階段を経て御休所に至る中央部分全体にわたる石材使用（図2・3）を中心に報告する．

2. 徳島県産大理石の産地と銘柄

国会議事堂の内装に使用されている国内各地の大理石は33～37銘柄に及び，中には現在の韓半島や台湾の石材も含まれるが，その使用量は徳島県産の大理石（石灰岩）が最も多いと言われている（工藤ほか，1999）．その中で，徳島県産は「曙」，「木頭石」，「時鳥（ほととぎす）」，「淡雪」，「加茂更紗」，「峇島」，「新淡雪」の7銘柄である（石田ほか，2004）．各銘柄の産地，岩質，採掘場の地質学的位置づけについては石田ほか（2004，2007）で報告した．その後の知見も含め以下に再録する．

2.1. 「曙」

産地：那賀町（旧木沢村）坂州高山平（図1：Loc.1）．日明山東斜面の急崖を登り詰めた標高850～870mの地点に位置する．

岩質：部分的に赤みがかった灰白色で，方解石脈の多いやや結晶質石灰岩．多少とも角礫状で，基質はほとんどなく，境界部にはスタイロライト構造が顕著である．クサリサンゴ，ハチノスサンゴ，日石サンゴ，ウミユリなどを含む．

地質：石田（1977）が報告した黒瀬川構造帯日明山レンズ状部のシルル紀石灰岩体が採掘されている．

議事堂での使用場所：衆参両院第二議員階段の手すり・壁（図22a-d），ならびに議員控室（3階）のヒーターの天板（図20）．

2.2. 「木頭石」

産地：那賀町（旧木沢村）木頭みさご山（図1：Loc.2）．

岩質：石灰岩の碎屑物と海底火山噴出物からなる重力流堆積物で，赤色層状チャートと灰白色の細粒碎屑性石灰岩互層に挟在する．碎屑性石灰岩は石炭紀後期のコノドントやサンゴ片を含む．岩質や色合いは多様で，細粒部分は，暗灰～白色のクラストからなり，緑色の凝灰質フィルムを縞状や網目状に含むほか，ウミユリの暗色細片を斑状に含む．粗粒部は赤紫色のハイアロクラスタイト基質に，長径数10cm以下の玄武岩塊や石灰岩塊を含む．赤色の層状チャートからは石炭紀後期後半のコノドントが産する．

地質：黒瀬川帯北部（正木帯：石田・香西，2003）の緑色岩分布地帯に由来する．

議事堂での使用場所：衆参両院副議長応接室の暖炉に使用（図21a,b）．

2.3. 「時鳥」

産地：阿南市阿瀬比町垂利田（図1：Loc.3）．

岩質：淡灰色（2.5Y7/1）ミクライト（石灰泥）質で，部分的にイントラクラスト（同質の炭酸塩碎屑物）を含み，基質は淡黄色（2.5Y8/4）ドロマイト質である．部分的に生痕の多いミクライト質石灰岩（茶竜紋）となる．

地質：三疊紀後期ノリアン後半のコノドントを産するチャート/石灰岩互層の下位側に，赤紫色凝灰岩基質の石灰角礫岩を挟んで位置する．那賀川帯津乃峰垂帯の白亜紀初期付加体メラングジュ相に属する石灰岩体．

議事堂での使用場所：御休所入口の額縁，御休所前広場の壁，中央階段左右の壁，3階中央広間の御休所に面した欄干（図9a,b,10,11a,b）．

2.4. 「淡雪」

産地：阿南市加茂町黒河（くろご；図1：Loc.4）．

岩質：淡灰色（10YR6/2）ミクライト質で，白色の方解石を脈状や綿雲状に含む．石材により黒色のスタイロライト境界が見られるが，議事堂の石材は，黒筋が極めて少ない「淡雪AB」タイプ（長谷川，1986）である．六射サンゴの密集する黒色石灰岩塊とメガロドンを含む．

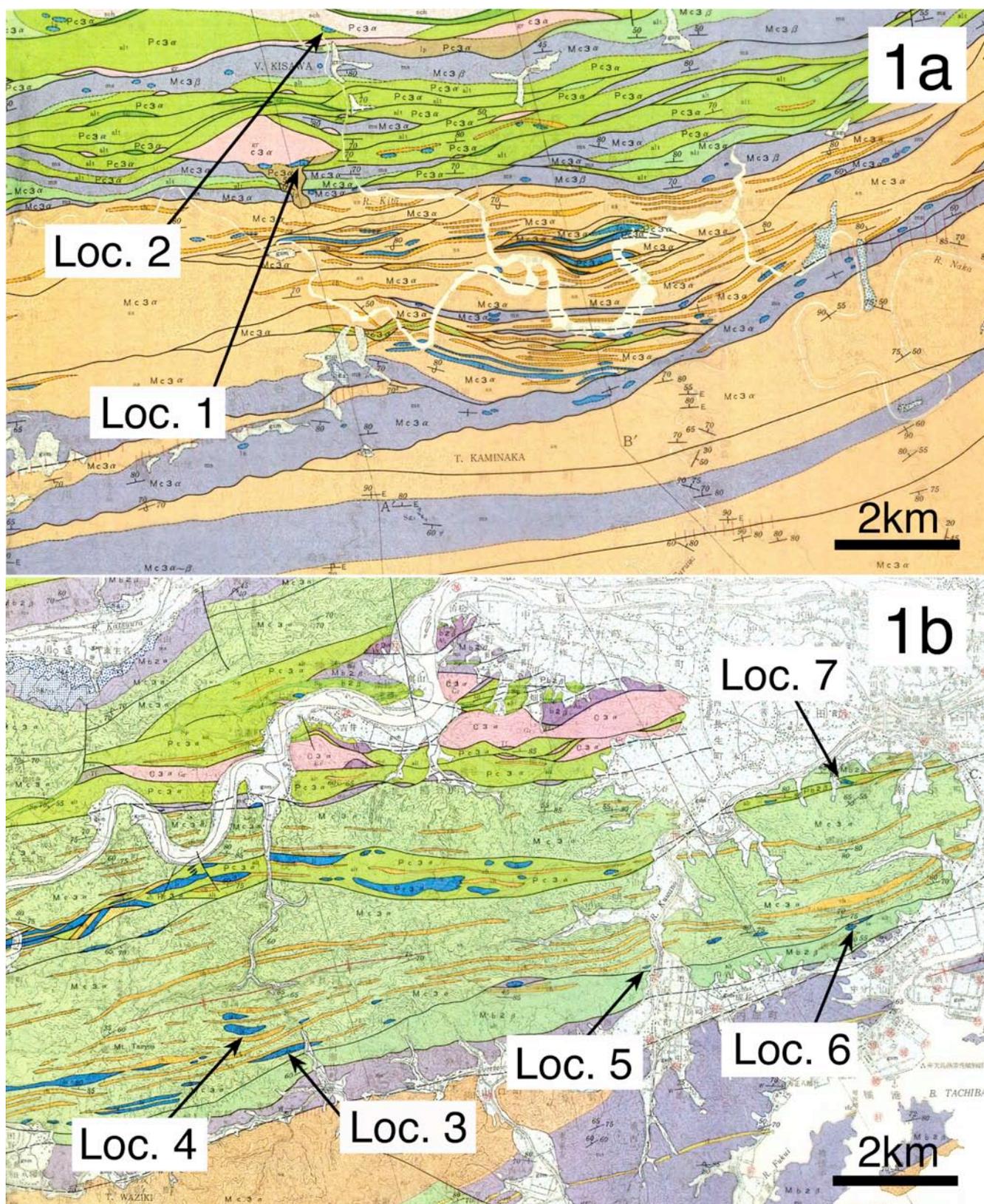


図1. 徳島県産国会議事堂大理石産出地点。
1a: 5万分の1表層地質図「桜谷」(中川他, 1980)の一部に加筆; 1b: 5万分の1表層地質図「阿波富岡」(中川他, 1979)の一部に加筆。

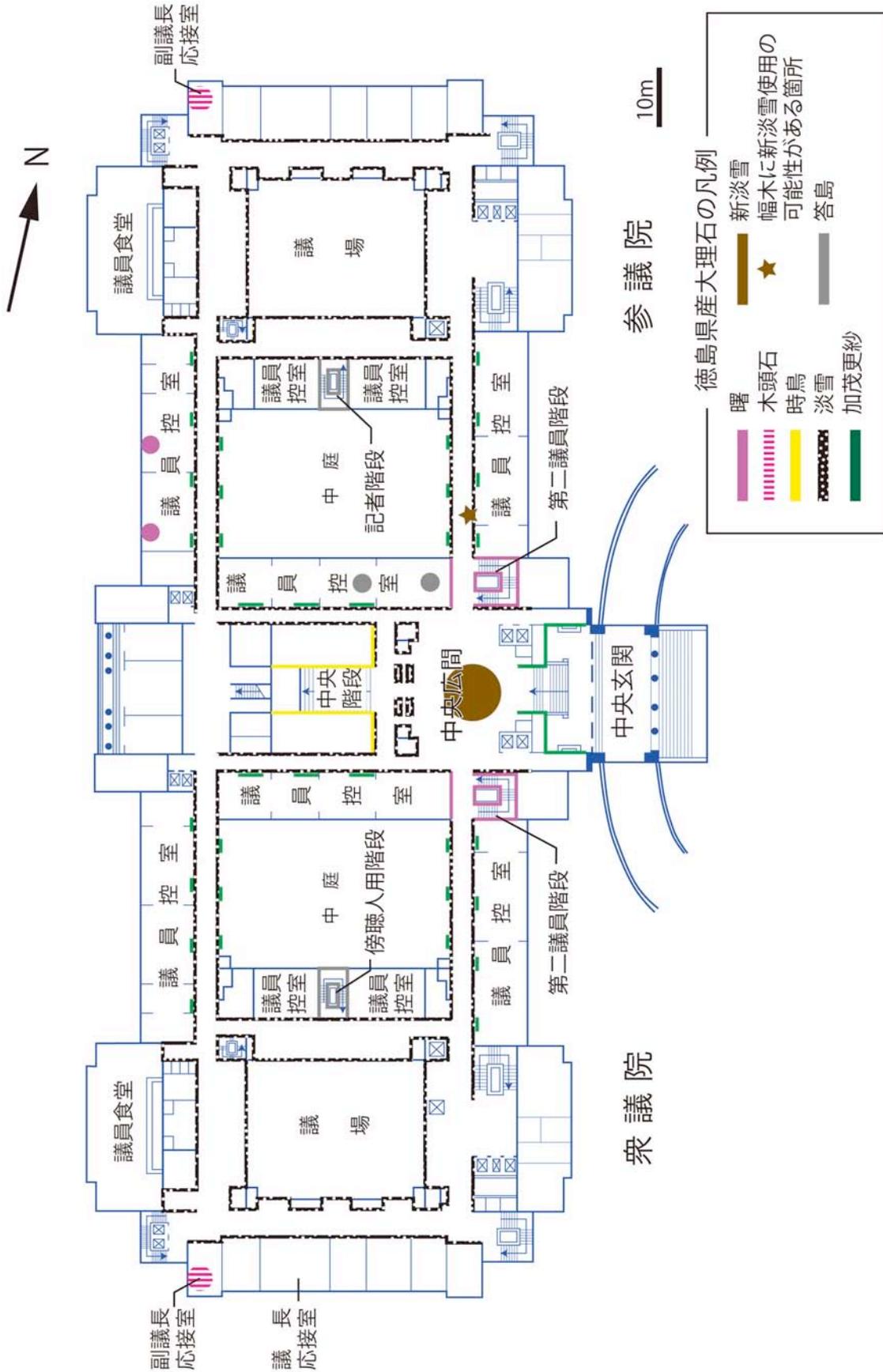


図2. 国会議事堂の配置図と徳島県産大理石の使用箇所(2階).

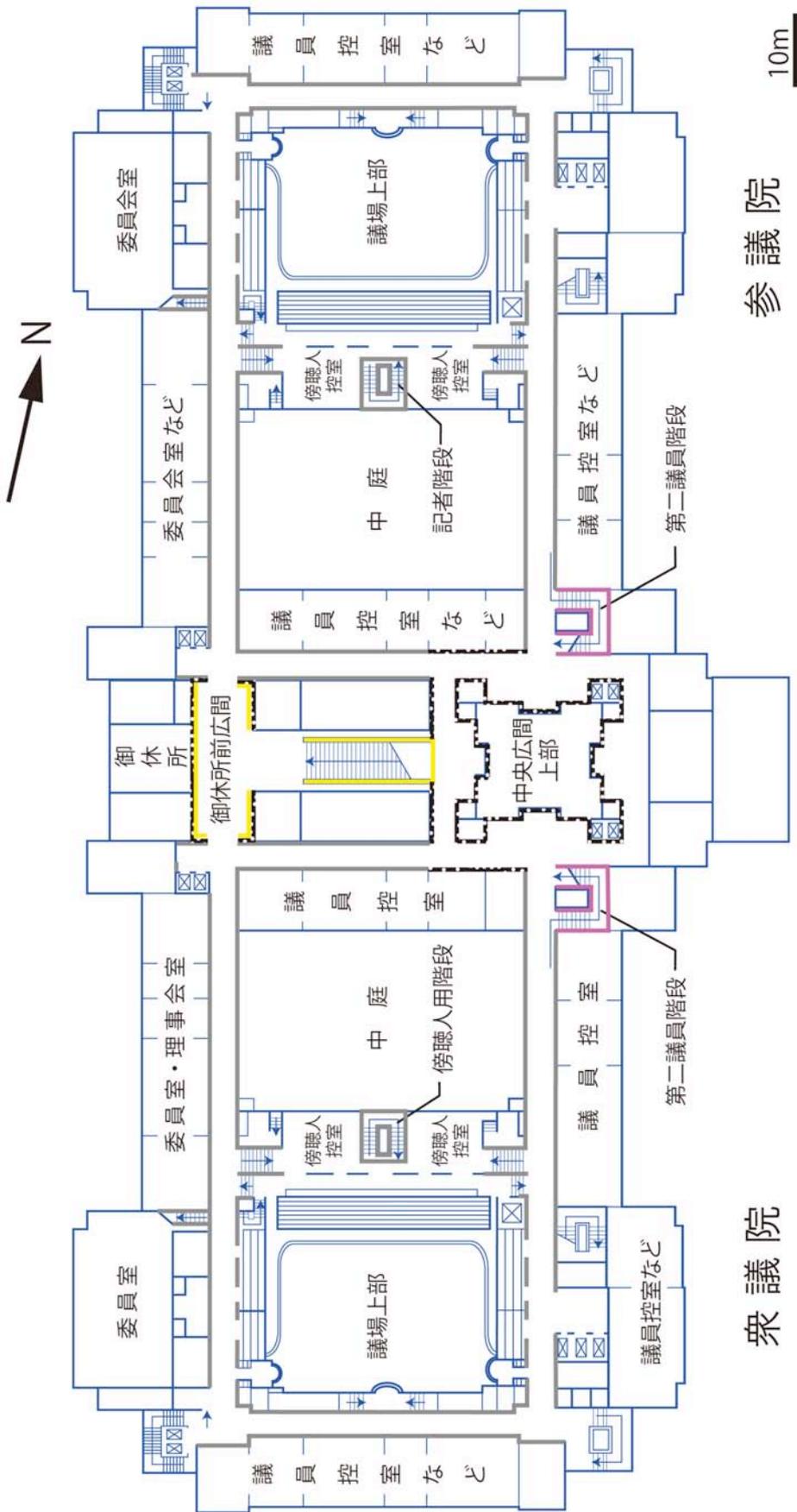


図3. 国会議事堂の配置図と徳島県産大理石の使用箇所(3階). 凡例は図2と同じ.

地質:津乃峰亜帯メラングジュ相の上部三畳系石灰岩体。

議事堂での使用場所:御休所前広場の幅木(図12), 衆参両院議場回りの幅木(図14a, b), 2階中庭周り通路の幅木(図15a, b; 参議院東側通路の一部を除く: 図16)と, 中央広間(2階・3階)の柱の台座(図8)に使用。

2.5. 「加茂更紗」

産地:阿南市桑野町大地(図1: Loc. 5)。

岩質:長径数~10cmの淡灰色ミクライト質クラストの境界は網目状の緑色凝灰岩フィルムからなる。まれに六射サンゴや赤色チャート岩片を含む。

地質:採石場の石灰岩からは三畳紀後期ノリアンおよびレチアンのコノドントが産する。南側に隣接する泥質岩からは白亜紀初期の放射虫群集が検出される。津乃峰亜帯のメラングジュ相に属する石灰岩体である。

議事堂での使用場所:中央玄関内側の壁, 中央広間へ上がる階段の両縁, および衆参両院議員控室入口(2階)の額縁, ならびに2階通路の窓棧に使用されている(図17a, b; 図19)。

2.6. 「答島」

産地:阿南市津乃峰町東分(図1: Loc. 6)。

岩質:議事堂の石材は, ホンクチ(本口)と“答島2”の石材と同質で, 部分的に白色方解石へと結晶化が進行した淡灰色ミクライトで, クモの巣状に黒色の破断劈開が1cm以下の間隔で発達する。

地質:“答島2”の石材からはノリアン前期のコノドントが産する。津乃峰亜帯の白亜紀前期層中に異地性岩塊として産する。

議事堂での使用場所:衆参両院の傍聴人控室出入口, 傍聴人用階段(「記者階段」)の手すりと壁(図23a, b), 3階廊下の幅木(図25a, b), 2階議員控室のヒーター床板(図18), 1階中央部食堂のヒーター床板(図13)。

2.7. 「新淡雪」

産地:阿南市宝田町井関(図1: Loc. 7)。

岩質:褐灰色(2.5Y5/3)ミクライト質で, 空隙や幅2~3mmの裂罅を充填した白色方解石脈が伴う。黒色に染まった破断劈開も見られる。

地質:秩父南帯(那賀川帯細野亜帯:石田・香西, 2003)のジュラ紀後期付加体メラングジュ相に属する石灰岩体である。有孔虫や石炭紀後期のコノドントが産する(石田, 1985)。

議事堂での使用場所:中央広間床のモザイクの一部に使用(図6)。参議院のみ2階中庭周り東側通路の幅木の一部に使用されている可能性がある(図16)。

3. 議事堂での使用状況

議事堂における徳島県産全7銘柄の石材について, 衆参両院および議事堂中央部分での使用状

況を比較した。工藤ほか(1999)は, 衆議院を中心とした石材調査に基づいて, 議事堂の構造が衆参両院で対称的であることから, 参議院における石材分布を図示して国会議事堂の石材を解説した。本報では, 議事堂内全体に及ぶ石材の照合調査に基づき, 徳島県産大理石の衆参両院での使用箇所の比較, ならびに建物の構造上は衆参両院の翼を繋ぐ中央広間と正面玄関から中央階段を経て天皇御休所に至る中央部分における石材使用を中心に報告する(図2・3)。

3.1. 中央部分

3.1.a. 中央玄関内側

中央玄関内側の壁(1階)と中央広間(2階)へ上がる階段の両縁には「加茂更紗」が使用されている(図4)。階段縁の石材には赤色チャート岩片を含むものが見られる(図5)。



図4. 中央玄関内側の壁(1階)と中央階段の縁に使用された「加茂更紗」。



図5. 中央玄関内側, 階段の縁に使用された「加茂更紗」に含まれる赤色チャート岩片。

3.1.b. 中央広間



図6. 中央広間2階床のモザイクの「新淡雪」とその上に置いた阿南市宝田町井関産大理石.



図9 a, b. 3階中央広間の御休所に面した欄干の「時鳥」1枚岩.
9 a (上): 全景; 9 a (下): 拡大.



図7. 中央広間2階の柱「琉球石」の台座に使用の「淡雪」とそれに含まれる六射サンゴ岩塊).



図8. 中央広間3階柱台座の「淡雪」(柱は「琉球石」)とそれに含まれるメガロドン.



図10. 3階御休所に面した中央広間欄干左(画面で右)の丸い柱と隣の四角い柱(右内側)の「時鳥」. 隣立する四角い柱(左側)から左へ続く壁の「琉球石」と幅木の「淡雪」. 欄干右(参議院側)も同様.

2階床のモザイクの一部には「新淡雪」が使用されている(図6)。2階および3階中央広間周囲の柱の台座と手すりには「淡雪」が用いられており、六射サンゴを含む黒色石灰岩塊やメガロドンが含まれている(図7, 8)。

3階中央広間の御休所に面した欄干は「時鳥」の1枚岩で台座と一体化している(図9a, b)。左右の丸い柱と隣立する2本の四角い柱の内側のものは「時鳥」で、隣立する四角い柱の外側のものから左右側へ続く壁は「琉球石」、幅木は「淡雪」となっている(図10)。

3.1.c. 中央階段、御休所額縁、御休所前広場

2階中央広間から3階の御休所前広場へ上がる中央階段の壁面と御休所額縁を含めた御休所前広場の壁面には「時鳥」が用いられている(図14a, b)。また御休所前広間の幅木には「淡雪」が用いられている(図12)。

中央階段直上部の3階中央広間西側通路の台座と通路両側の壁面も「時鳥」が用いられている。



図12. 御休所前広間(3階)の幅木に用いられている「淡雪」。



図13. 1階中央部食堂のヒーター床板に用いられた「答島」。



図11a, b. 中央広間から見た御休所入り口の額縁および中央階段に使用された「時鳥」。

11a(上): 3階中央広間欄干より。11b(下): 2階中央広間より。

3.1.d. 中央部食堂

中央部食堂(1階中央階段下)のヒーター床板には、「答島」が用いられている(図13)。

3.2. 衆参両院

3.2.a. 議場周り

衆参両院議場周り通路の幅木(2階)には、「淡雪」が用いられている(図14a, b)。但し、参議院の中庭周り南側通路に限っては、「新淡雪」に酷似した幅木も一部に見られる(図16)。衆議院では全て「淡雪」が用いられている。

3.2.b. 議員控室の額縁

衆参両院議員控室入口(2階)の額縁には、「加茂更紗」が用いられている(図17a, b)。衆議院議員控室など、石材には稀に赤色チャート岩片を含むものが見られる。また、2階中庭周り通路の窓枠にも「加茂更紗」が用いられている(図19)。



図 14a, b. 議場周り通路 (2 階) の幅木の「淡雪」.
14a (上) : 衆議院 ; 14b (下) : 参議院.



図 15a, b. 中庭周り通路 (2 階) の「淡雪」.
15a (上) : 衆議院. 黒色の六射サンゴ石灰岩塊を含む ; 15b (下) : 参議院. メガロドンを含む.

3. 2. c. 議員控室内部

一部の参議院 2 階の議員控室 (2 階) のヒーターの天板には「曙」が用いられている. 筆者らは, 2004 年 1 月の参議院における各政党議員控室の調査の際に, クサリサンゴが含まれることを確認した (図 20). 工藤ほか (1999) は, 衆議院の政党議員控室において, 同様に「曙」が用いられていることを報告している. 衆議院 2 階は未調査である.

また一部の参議院 2 階の議員控室 (工藤ほか「議事堂の石」の「政府委員会室」に該当する部屋) のヒーターの床板には「答島」が用いられている (図 18). これらの部屋のうち, 衆議院 2 階については未調査である.

3. 2. d. 副議長応接室

議事堂 2 階にある衆参両院副議長応接室の暖炉には, 「木頭石」が使用されている (図 21a, b).

3. 2. e. 第二議員階段

衆参両院第二議員階段の手すり・壁には「曙」



図 16. 参議院中庭周り東側通路 (2 階) の「新淡雪」酷似の幅木とその上に置いた阿南市宝田町井関産大理石.



図 17a, b. 議員控室入り口(2階)の額縁に用いられた「加茂更紗」とその上に置いた阿南市大地産大理石.

17a (上): 衆議院. 17b (下): 参議院.



図 18. 議員控室のヒーター床板に用いられている「答島」とその上に置いた阿南市津乃峰町東分産大理石. 参議院.



図 19. 2階中庭周り通路の窓枠に用いられた「加茂更紗」およびその上に置いた阿南市桑野町大地産大理石. 衆議院.



図 20. 政党控室(2階)ヒーター天板の「曙」とクサリサンゴ, その上に置いた那賀町坂州高山平産大理石. 参議院.



図 21a, b. 副議長応接室（2階）の暖炉の「木頭石」. 21a（上）：衆議院；21b（下）：参議院.

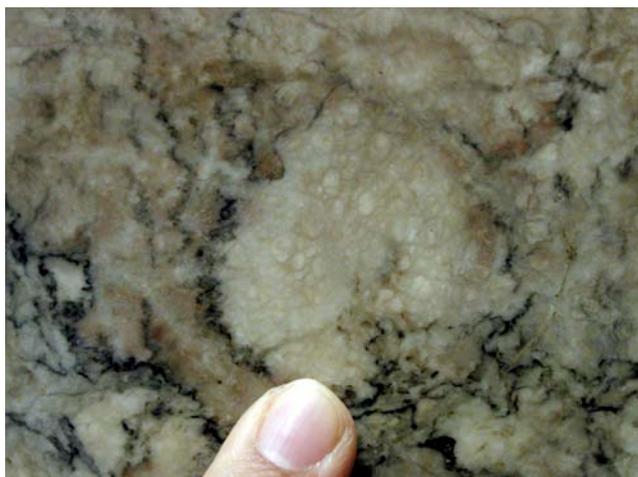


図 22b. 第二議員階段の「曙」に含まれる日石サンゴ（直径約4cm）. 衆議院.



図 22c. 第二議員階段の「曙」. 参議院.

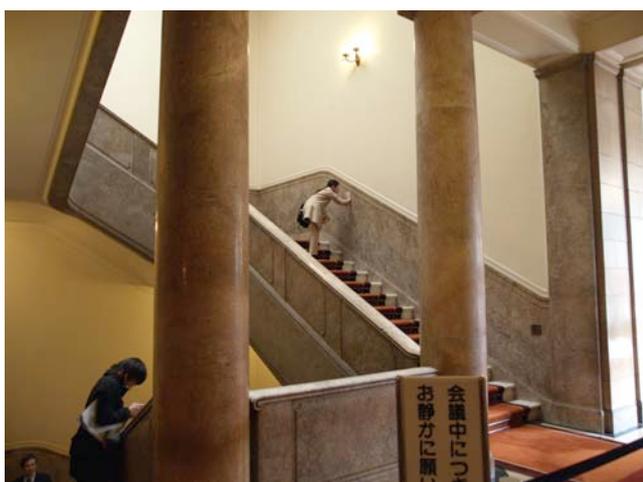


図 22a. 第二議員階段に用いられた「曙」. 衆議院.

が使用されており、いずれにおいても、ハチノスサンゴやクサリサンゴ、日石サンゴが見出された（図 22a, b, c, d）.

3. 2. f. 議場傍聴席への階段

衆参両院の議場傍聴席（3階）に上がるエレベーター横の傍聴人用階段（図3参照）の手すりと壁には「答島」が用いられている（図 23a, b）. この階段は、参議院では「記者階段」と呼ばれているが、衆議院では格別な名称は与えられておらず「傍聴人用階段」などと呼ばれている.

議場傍聴席へ上がるエレベーターは昭和40年代に設置され、入り口額縁の石材は、阿南市黒河（くろご）の太竜石灰鉱山（現ヒロックス）採石場から産した石材に酷似する. 黒い網目模様が明瞭な石材で、阿南市阿瀬比から黒河の全丁場から産し、戦後は「淡雪 AKC」とした石材（長谷川, 1986MS）である（図 24a, b）.



図 22d. 第二議員階段の「曙」に含まれるハチノスサンゴ (長さ約 2.5cm). 参議院.



図 23b. 「記者階段」に用いられた「答島」. 議場傍聴席 (3 階) に上がるエレベーター横. 参議院.



図 23a. 「傍聴人用階段」に用いられた「答島」. 議場傍聴席 (3 階) に上がるエレベーター横. 衆議院.



図 24a. 議場傍聴席に上がるエレベーター額縁と壁面の大理石. 衆議院. 「淡雪 AKC」タイプの大理石が改修の際に用いられた. 右隅の幅木は, エレベーター設置以前からある「傍聴人階段」の「答島」.

3. 2. g. 3 階中央南と北の廊下

3 階中央東と西の廊下の幅木には, 「答島」が用いられている (図 25a, b).



図 24b. 議場傍聴席に上がるエレベーター額縁と壁面の大理石. 参議院. 「淡雪 AKC」タイプの黒い縞の多い大理石が改修の際に用いられた.



図 25a. 3 階中央南と北の廊下の幅木に用いられている「答島」. 衆議院.

4. 考察とまとめ

徳島県産国会議事堂の大理石石材とその産地の調査研究は、自然科学とくに地質学的な観点図



25b. 3 階中央南と北の廊下の幅木に用いられている「答島」. 参議院.

からは、日本列島や四国山地の付加体形成と、その源となった古海洋の環境履歴を検証する上で、よく研磨された石材から得られる堆積学的・古生物学的な情報は極めて多く詳細で重要であり、探求する意義が大きい。同時に、冒頭で述べたように、国会議事堂は当時の粋を集めた建築物であり、現在では、年間 30 万人以上の参観者が訪れ、人々に親しまれている建築物でもある。したがって自然科学の主題に留まらず、議事堂建築にあたっての石材採掘の歴史的経緯や、大理石石材の持つ芸術性とその文化的意義を含めた文化財科学の観点から、大理石 石材調査は総合的な探求意義の高い対象とテーマであると筆者らは捉えている。今回の報告では、徳島県産の大理石 7 銘柄の、衆参両院および議事堂中央部分での使用状況を比較した。その結果は以下に要約される。

1. 今回の報告は、実際の石材照合調査に基づく初めての衆参両院における石材使用の比較である。工藤ほか (1999) は、衆議院を中心とした石材調査に基づいて、議事堂の構造が衆参両院で対称的であることから、参議院における石材分布を図示して国会議事堂の石材を解説した。その記述内容に関しても具体的に検証された。
2. 照合結果は、石材のコンビネーション、例えば柱と台座、幅木と手すりなども含めて、衆参両院で石材の使用状況が左右対称であった。
3. 銘柄により、中央部分にしか使われていない石材としては、「時鳥」が挙げられる。
4. 中央部分とともに衆参両院の全般にわたって使用されている石材には「加茂更紗」と「淡雪」がある。
5. 「新淡雪」は中央広間のモザイクのほか、参議院の中庭周り東側通路の幅木の一部に使用されている可能性がある。石田ほか (2004) で 2 階中庭周り廊下の幅木の一部に「新淡雪」酷似の石材使用例を報告した。その後 2005・2006 年の調査で、衆参両院 2 階の中庭周り廊下の

- 幅木にはメガロドンや六射サンゴが含まれることが明らかとなり、少なくとも参議院東側通路を除く衆参両院の同箇所の大部分は「淡雪」であることが確かめられた。
6. 中央部分以外の衆参両院に限って使用されている石材には「曙」、「木頭石」と「答島」がある。
 7. 壁面、手すり、柱、額縁など目線より高い箇所に主に使用されている石材には「時鳥」、「加茂更紗」、「曙」がある。
 8. 幅木や床のモザイクなど、主に目線より低い箇所に使用されている石材としては「新淡雪」、「答島」、「淡雪」が挙げられる。
 9. 副議長応接室暖炉など、部屋の中央の装飾箇所に使われている石材としては「木頭石」が挙げられる。例えば議長応接室の暖炉には、岩手県上閉伊郡産の「紫雲」と呼ばれる結晶質の石灰角礫岩が用いられている(図26)。いずれも多彩で装飾性に富む石灰角礫岩質の石材である。
 10. 衆議院議場周りの「淡雪」には、他に比べてメガロドンが目立って含まれていた。石材は板状に切断したものを展開しながら隣接して貼り合わせることから、今後、貼った順序が解明されることで、切り出しに伴い、どの層準の石材がどの箇所に使用されたかが解明できると同時に、現在ではほとんど掘り尽くされた岩体の層序を解明する上で、重要な地質情報が収集できると考えられる。

謝辞： 聞き取りに当たって、「新版 議事堂の石」の筆頭著者であり、長年、議事堂石材の調査と資料収集にあたられた工藤 晃 元衆議院議員からは、議事堂石材関連資料を提供頂いた。また、現地情報と資料情報の照合・確認に協力頂いたばかりでなく、調査研究の推進を常に暖かく励まして頂いた。共著者の大森昌衛 東京教育大学名誉教授、中井 均 都留文科大学教授ならびに、亀井節夫 元徳島県立博物館長からは、温かい励ましのお言葉をいただいた。

国会議事堂の石材視察調査に際して、当時参議院事務局の山口一夫庶務部長、同広報課(南川洋一郎課長、秋谷薫司課長、吉岡成子広報主幹、猿谷勝則参事、田岡彦了広報企画係長、森下伊三夫広報企画係長)、ならびに衆議院事務局庶務部営繕課(鈴木英敏課長補佐、高橋三郎建築技術係長)、また参議院衛視班長中島和夫参事、衆議院事務局加藤茂樹参事をはじめとする衆参両院の警務部の方々には、手続きから視察調査の現地案内・立ち会いに至るまで終始お世話いただいた。徳島県東京事務所(長町哲治係長、喜馬和人係長)には、国会議事堂の石材視察調査に際して、参議院広報課への連絡・日程調整でお世話頂き、また田岡拓哉次長には、調査企画に有益な助言を頂いた。衆議院憲政記念館(高橋朝明氏、福本 真氏)には、同館所蔵の国会議事堂石材見本について教示頂いた。



図 26. 議長応接室の暖炉に使用の「紫雲」。岩手県上閉伊郡産。衆議院議長応接室にて。

矢橋大理石株式会社(岐阜県大垣市赤坂町、業務部 安田良朗次長、戸川雅弘係長)には、同社所蔵の徳島県産大理石見本をはじめ、関連資料について教示頂いた(2004年3月23日)。とくに同社顧問で、1932年入社以来、国会議事堂の大理石石材資料に関与された折戸嗣夫氏(岐阜県大垣市青木町)、ならびに、1952・53年にわたって、国会議事堂関連石材の採掘場跡を調査した長谷川 進氏(岐阜県大垣市北方町)には、国会議事堂石材写真や石材試料の照合に立ち会って頂き、関連資料について教示いただいた。

旧木沢村(現那賀町)教育委員会当時の井内海俊教育長ならびに、仁義博文氏(木沢山の会、木沢村向エ)、松本四郎氏(旧木沢村木頭広瀬)・山本重行氏(旧木沢村坂州)をはじめ旧木沢村のみなさまには、「曙」・「木頭石」に関する情報収集に協力頂いた。旧木沢村誌編纂室(井上茂夫室長)には、「曙」採掘当時の聞き取り情報について、ご教示頂いた。「曙」を1927~1930(昭和2~5)年頃に採掘した神原 博氏(阿南市阿瀬比町中村)には、採掘当時の状況を口述頂き、関連資料を見せて頂いた。「四紋」は、同氏の口述(2004年2月1日)による。(有)吉崎建材店(阿南市見能林町堤ノ内)の吉崎義人取締役社長、豊田 隆専務取締役、ならびに吉崎孝彦氏(阿南市富岡町東仲町)には、「曙」の搬出と吉崎善八氏に関する資料・情報を提供頂いた。

(有)田中工業所の田中一成代表取締役(阿南市桑野町鳥居前)には、「曙」に関する聞き取り調査に協力頂き、「時鳥」の採掘現場、ならびに田中鉦山と田中賀平・田中竹次両氏に関する情報をいただいた。田中滋子氏(阿南市阿瀬比町西内)には、所蔵の田中賀平氏関連資料を見せて頂いた。株式会社ヒロックス太龍鉦山事務所(阿南市加茂町黒河)の加藤清尋所長には、田中鉦山関連の石材採掘場跡に案内頂いた。

徳島県文化財課当時の福家清司課長(現 徳島県教育長)には、調査の便宜を図っていただき、

「加茂更紗」採掘跡の視察に同行いただいた。早瀬隆人氏（徳島県文化財課）、ならびに松浦康雄氏（阿南市桑野町大地）には、「加茂更紗」を採掘した松浦菊蔵氏についてご教示頂き、松浦家所蔵の関連資料を見せて頂いた。阿南市史編さん室（古川良夫室長）には、収集された国会議事堂石材関連資料について教示頂いた。

高島光彦氏（阿南市津乃峰町東分）には、「答島」の採掘場跡に案内頂き、高島兵吉氏に関する資料を見せて頂いた。増田肇氏（阿南市津乃峰町中分）には、「答島」採掘当時の状況についてご教示頂いた。徳島県阿南土木事務所（板東英明次長）には、阿南市宝田町井関の採掘関係者についての情報を提供頂いた。

徳島石材産業株式会社（徳島県板野郡板野町）の柴田圭一営業部長には、石材見本の作成に協力いただいた。徳島大学総合科学部在籍当時の難波亜里子氏、吉岡美穂氏、岡本治香氏、多摩美術大学造形表現学部在籍当時の石田 桜嬢には、国会議事堂の視察調査ならびに、写真撮影に協力頂いた。

中井 均 都留文科大教授には、本稿を見ていただき、貴重なご意見を頂いた。以上の関係各位に厚くお礼申し上げます。

文献・資料

阿南市史編纂委員会（編）、2001、阿南市史 第三卷（近代編）。阿南市教育委員会、1-577。
 長谷川 進、1986(MS)、石材（本邦産）。矢橋大理石（株）社内資料、133p。
 市川浩一郎・石井健一・中川衷三・須鎗和巳・山下昇、1956、黒瀬川構造帯（四国秩父累帯の研究 III）。地質雑、62、82-103。
 石田啓祐、1977、徳島県坂州南西におけるシルル系石灰岩の発見。地質雑、83、437-438。
 石田啓祐、1985、徳島県地域の秩父累帯南帯にお

ける堆積岩類の放散虫・コノドントによる年代とその配列。徳島大学教養部紀要、18、27-81。

石田啓祐・香西 武、2003、四国東部秩父累帯の地帯区分と層序。徳島大学総合科学部自然科学研究、16、11-41。

石田啓祐・吉岡美穂・岡本治香・難波亜里子・中尾賢一・香西 武、2004、徳島県産国会議事堂大理石の研究 -その1. 産地と地質概要-。徳島大学総合科学部 自然科学研究、18、15-23。

石田啓祐・中尾賢一・東明省三、2007、徳島県産国会議事堂大理石の研究 -その2. 採掘関連聞き取り調査と検証-。徳島大学総合科学部 自然科学研究、21、33-46。

木沢村誌編纂委員会（編）、2005、「曙」の切り出し。38、木沢村誌後編、徳島県那賀郡木沢村、745p。

小山一郎、1931、日本産石材精義。龍吟社、東京、298p。

工藤 晃・大森昌衛・牛来正夫・中井 均、1999、新版 議事堂の石、新日本出版社、東京、158p。

中川衷三・岩崎正夫・須鎗和巳・石田啓祐、1979、5万分の1「阿波富岡」表層地質図および説明書、徳島県、土地分類基本調査、38p。

中川衷三・岩崎正夫・須鎗和巳・石田啓祐、1980、5万分の1「桜谷」表層地質図および説明書、徳島県、土地分類基本調査、32p。

中尾賢一・高島芳弘・長谷川賢二・魚島純一、2004、石とくらし。徳島県立博物館企画展「石とくらし」展示図録。徳島県立博物館、31p。

大蔵省営繕管財局、1936、帝国議会議事堂建築の概要、東京、57p。

大蔵省営繕管財局、1938、帝国議会議事堂報告書。東京、p.411。

四国通商産業局（編）、1957、四国鉱山誌。（財）四国商工協会、816p。

徳島県教育委員会（編）、徳島の文化財。徳島県、382p。

論文受付：2009年9月7日
 改訂論文受付：2009年9月24日
 論文受理：2009年9月24日